

平成27年度 上田市教育行政に係る事務の点検及び評価報告書

上田市教育行政評価懇話会

第1回 平成28年6月28日(火) 午後1時30分～午後3時30分

第2回 平成28年7月 4日(月) 午後1時30分～午後3時30分

第3回 平成28年7月28日(木) 午後1時30分～午後3時30分

上田市教育委員会

目 次

趣旨		1
上田市教育行政評価懇話会		1
評価の方法		2
評価の結果及び懇話会の提言内容等		
1 上田市教育支援プランの推進		
幼保小中の連携によるスムーズな接続	学校教育課	3
不登校や特別な支援が必要な児童・生徒への支援	学校教育課	4
ICTを活用した効果的な授業の推進	学校教育課	5
地域に信頼され、地域に開かれた学校づくり	学校教育課 生涯学習課	6
放課後児童対策の充実	学校教育課	8
2 学校施設の耐震化推進と教育環境の整備		
小中学校施設の耐震化事業の計画的な推進	教育総務課	9
小中学校施設・設備の計画的な改修と日常的な営繕の充実	教育総務課	11
3 地域に根づいた文化創造支援と文化遺産の継承と活用		
「上田市文化芸術振興に関する基本構想」の策定と、文化芸術振興 条例制定についての検討	文化振興課	12
市民や文化団体との連携、協働による文化事業の推進と人材育成 の充実	文化振興課	13
史跡等整備推進と文化財の保護と活用	文化振興課	15
郷土の文化・歴史、偉人の業績等を知る機会の創出	文化振興課 博物館	17
4 生涯学習の推進による地域の教育力の醸成		
「上田市生涯学習基本構想」の策定	生涯学習課	19
社会教育施設の計画的な整備	生涯学習課	20
人権同和教育推進事業	生涯学習課	21
5 生涯スポーツ活動の推進とスポーツ環境の整備		
スポーツ施設整備の推進	スポーツ推進課	22
市民のスポーツへの関心や参加意欲の促進及び生涯スポーツ社会 実現のための施策	スポーツ推進課	23
総合型地域スポーツクラブの活動支援	スポーツ推進課	24

趣旨

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」において、各教育委員会は効果的な教育行政の推進を図り、住民への説明責任を果たしていくため、教育に関する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を毎年行うことになりました。

そのため、法改正の趣旨に鑑み、平成20年度から目標管理制度において設定した教育委員会の重点事業について、自己点検及び自己評価を行い、上田市教育行政評価懇話会において、有識者から提言をいただいています。これらの評価の結果や懇話会における委員からの意見は、今後の教育に関する事業の改善に役立てていきます。

上田市教育行政評価懇話会

平成27年度重点事業の評価の結果等について、有識者からの意見を聞くため、本年度は、6月28日、7月4日、7月28日の3回にわたって上田市教育行政評価懇話会を開催しました。

なお、委員には、上田市の教育に携わった経験があり、専門的な観点からの意見を期待できる次の7人に就任を依頼しました。

(敬称略)

氏名	略歴	備考
松本 千恵子	元上田教育事務所 学校教育課長、元学校教育課指導主事、元北小学校長	座長
田畑 和秀	前神科小学校長	副座長
片桐 恭子	第三中学校評議員、上田地区更生保護サポートセンター 企画調整保護司	
児玉 卓文	上田市博物館協議会委員、元長野県立歴史館文献史料課長、元信濃国分寺資料館社会教育指導員	
関 和弘	上田市スポーツ推進委員会 副会長	
竹花 のり子	上田市社会教育委員	
早坂 淳	長野大学社会福祉学部社会福祉学科准教授、上田市社会教育委員	

評価の方法

平成27年度重点事業の年度末における目標の達成状況について、AからDまでの4段階による評価を行いました。

【総合評価】

ランク	内 容
A	目標を上回る成果があった。
B	目標どおりの成果があった。
C	目標未達成の部分があった。
D	全ての目標が未達成であった。

評価の結果及び懇話会の提言内容等

平成27年度重点事業の評価の結果及びこれに対する懇話会の提言内容等は、事業評価シートに記載のとおりです。

平成27年度 事業評価シート

1 -

事業名	幼保小中の連携によるスムーズな接続	担当課	学校教育課
-----	-------------------	-----	-------

当初目標	<p>保育士が小学校を訪問し、教員との交流を図り、新入時の受け入れについて情報交換を行います。(4校)</p> <p>中学校5校に専科教員を配置し、中学校教員が小学校で、中学校の教員の専門性を生かした授業を行い、学習意欲の向上と中学進学不安解消を図ります。(5校)</p> <p>併せて、専科教員配置校以外の中学校においても、可能な範囲で同様の取組を行います。(6校)</p>		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	小中連携教員の配置		10,848
	児童アンケートの実施(2回)		0
	保育士を小学校に派遣		0
目標の達成状況	<p>数学の専科教員を中学校に5人配置し、中学校の教員が中学校区の小学校10校へ出向き授業を実施しました。</p> <p>アンケート調査では「算数が好き」と答える児童の割合が66.7%、「中学校の先生と授業を続けたい」と答える児童の割合が80.2%となっており、事業の成果が表れていると考えます。</p> <p>1学期において、4小学校で保育士と教員が交流及び情報交換を行い、必要な支援や教育等の共通理解が得られました。</p> <p>中学校ブロック毎に幼保小中が連携した取組が実施され、実施状況及び成果を全体で共有しました。</p>		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	<p>小中連携事業は実施から5年が経過し、一定の成果を上げているが、この成果を市内全域に広げていく必要があります。</p> <p>現在行われている取組を継続させるとともに、今後は大学など高等教育機関が集積する地域の特性を活かした連携事業を構築していくことを検討していきます。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>小一プロブレム、中一ギャップという不登校につながりかねない学校の接続上の問題に対応するために、学校間の連携を掲げた取組であり評価します。</p> <p>中学校に対して不安を抱く児童もいるなか、この不安を軽減する効果がアンケート結果に表れており、代替教員の確保に努め、この取組が広がることを期待します。</p> <p>中学校の教員は小学生に対する授業において、説明方法を工夫するなどの教え方を磨くことができるほか、小学校の現場を見て中学校における受け入れに備えることができる点も大きな効果と考えます。</p> <p>小学校で授業を実施した教員が、小学校で得た情報を中学校で共有することで、より効果的な事業になると期待される一方で、教員の負担も大きくなることが考えられるため、教育委員会として十分な配慮を望みます。</p>	
意見に対する考え方		<p>小中連携事業には、「中1ギャップの解消」及び「小中相互の教員が授業改善に役立て学力向上を図る」との大きく二つの目的を掲げています。</p> <p>児童が、教科担任制の授業体験し、中学校に関する情報を得たり、面識のある先生が中学校ににいるという安心感を持ち、中学進学へのスムーズな接続ができると考えます。平成28年度は専科教員の確保が困難であり実施校が1校減となりましたが、教員を確保し取組が広がるよう今後も努めてまいります。</p> <p>小中が連携して学力向上を図るため、連携教員による公開授業を開催しています。また、連携事業実施校及び連携教員と教育委員会との情報交換会を開催することで、本事業がより効果的に実施できるよう今後も努めてまいります。</p>	
今後の方針等		<p>小中連携事業による公開授業を開催し、各校から選出された「学力向上委員」が参観することで各校の授業改善に役立て、学力向上につなげます。</p> <p>市長部局とも連携し、高校・大学と小中学校との連携事業を構築していきます。</p>	

平成27年度 事業評価シート

1 -

事業名	不登校や特別な支援が必要な児童・生徒への支援	担当課	学校教育課
-----	------------------------	-----	-------

当初目標	<p>市内の全小中学校に心の教室相談員を配置し、相談支援体制の充実を図ります。スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを学校に派遣し、専門性を生かした相談支援体制を整備します。</p> <p>市内の全ての小中学校に特別支援教育支援員を配置し、特別な支援が必要な児童生徒の支援を行います。</p> <p>特別な支援が必要な児童に対し、地域のボランティアによる学習や生活面での支援を行います。</p> <p>小学校2校、中学校2校の特別支援学級に2台ずつタブレット型パソコンを配備し、児童生徒に個に応じた指導を行い、学習意欲や学力の向上を図ります。</p>
------	--

具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)
	心の教室相談員事業	24,619
	特別支援教育支援員事業	46,820
	(定住自立圏事業)スクールカウンセラー派遣事業	2,951
	(定住自立圏事業)スクールソーシャルワーカー派遣事業	1,527
	学校支援ボランティア事業	9

目標の達成状況	<p>不登校児童生徒に対応するため、各学校の相談体制の充実を図ってきたが、平成28年1月末現在の不登校児童生徒の在籍比率が前年同時期に比べ、小学校で0.09%、中学校で0.38%増加しています。</p> <p>スクールカウンセラー事業として、スクールカウンセラー1人を年間延86校に、合計355時間派遣し、児童生徒や保護者とのカウンセリングを行いました。</p> <p>家庭への対応など、福祉や医療関係機関との連携が必要なケースが増えており、スクールソーシャルワーカーの派遣が年間延138回、合計218.5時間となりました。</p> <p>特別支援教育支援員を前年度より1人増員の57人とし、全小中学校に派遣しました。</p> <p>医療ケアが必要な児童への支援を行うため、看護師資格を有する特別支援教育支援員を1人雇用しました。</p>
---------	---

総合評価	B
------	---

今後の課題等	<p>不登校児童生徒の在籍比率を下げるため、学校内の支援体制と、初期対応の充実を図る必要があります。</p> <p>不登校には家庭環境が要因となっている場合も多く、学校だけでは対応困難で福祉や医療など地域の関係機関との連携を図る必要があります。</p> <p>近年増加傾向にある、発達障がいのある児童生徒に対する支援を行うため、教職員への研修と学習環境の整備が必要です。</p>
--------	---

上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>この事業は、県内においても先進的な取組であり評価します。</p> <p>相談員や支援員には教員としての経験などに加えて、特別な支援をするための専門性も求められます。このため、専門性を身につけるための研修の充実などが必要であると考えます。</p> <p>不登校対策については、子どもの貧困率が上昇している状況を踏まえ、取り組む必要があると考えます。</p> <p>不登校に至らないような学級づくりを通して、児童生徒の居場所づくりを大切にしながらも、学級に馴染めない子どもに対しては、中間教室などのセーフティネットによる支援が必要と考えます。</p> <p>不登校対策として、家庭環境の問題なども注目されるが、子どもの話を親身になって聴くことができる関係者を増やすことも必要であると考えます。</p>
--------------	---------	---

上田市教育行政評価懇話会	意見に対する考え方	<p>「心の教室相談員」に対しては新任時及び年2回の合同研修を実施するとともに、教育相談所が学校訪問し、個別の指導も随時実施しています。「特別支援教育支援員」に対しても新任時及び年1回の合同研修を行っています。研修内容や回数の見直しを毎年度行いながら、今後も専門性を養成していきます。</p> <p>全小中学校に設置している「不登校対策指導委員会」による組織的な対応、教育相談所との連携により、校内支援体制の整備や中間教室の利用など、個々に応じた対応に努めます。また、貧困や家庭環境が不登校の要因と考えられるケースについては、スクールソーシャルワーカーを活用し、専門機関と連携しての課題解決を図り、登校支援につなげていきます。</p>
--------------	-----------	---

今後の方針等	<p>不登校や特別な支援が必要な児童生徒を支援するため、「心の教室相談員」及び「特別支援教育支援員」を引き続き配置するとともに、教育相談所や各学校での相談体制を充実させます。</p> <p>スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの派遣を通じ、家庭への働きかけを行います。教職員を対象に発達障がいに関する研修会を開催します。</p>
--------	--

平成27年度 事業評価シート

1 -

事業名	ICTを活用した効果的な授業の推進	担当課	学校教育課
-----	-------------------	-----	-------

当初目標	特別支援学級へタブレット端末PCと無線LAN環境を試験的に導入します。(2小学校、2中学校)		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	特別支援学級へのタブレット型端末配備と無線LAN環境の整備 (西小8台、南小8台、一中8台、六中5台)		2,576
目標の達成状況	<p>学校にタブレット端末PCを配備することで生じる手続きや学校現場で苦慮する点が浮き彫りになり、その都度対応策を講じました。この検証結果を整理することで、今後、他の学校へタブレット端末PCを配備していく際に、学校への負担を軽減し、より活用しやすい環境とする基盤を構築することができました。</p> <p>試験導入を行った4校とも、児童生徒がタブレット端末PCを使用して個々の苦手部分を補いながら学習をすることで自信を深め、学習意欲が高まった、集中力が増したとの結果が出ており、教育的効果が高いことが実証されました。</p>		

総合評価	A
------	---

今後の課題等	<p>児童生徒の状況に合わせた教材はアプリをダウンロードして活用しますが、効果のあるアプリについての情報を学校間で共有することが必要です。また、管理システムが複雑な面があり、扱いやすいシステムの開発が必要です。</p> <p>校外学習や原級での活用について研究することが必要です。</p> <p>落下による損傷などを防ぐための保護用カバーや持ち運びの際に使用するネックストラップなどが必要です。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>特別支援の研究に基づき、対象となる児童生徒の認知の特性に合わせて、視覚的に情報を取り入れるという取組を展開している事業であり評価します。目からの情報に特化することで、子どもの学習能力を引き出すことができる素晴らしい事業であると評価します。</p> <p>タブレット端末PCの活用は従来の文字が中心の授業を見直す機会であると捉え、単に台数を増やすだけではなく、発達に障がいを抱える子と定型発達の子と一緒に受けられる授業についても、研究が進められることを期待します。</p> <p>多くの教員がタブレット端末PCを活用した授業の有効性を理解し、タブレット端末PCを用いた授業が広がることで、子どもの授業への理解がより進むことを期待します。</p> <p>学校だけでなく、家庭に普及しているタブレット端末PCを活用できれば、学力向上により効果があると考えます。</p>	
今後の方針等	意見に対する考え方	<p>タブレット端末PCを用いた学習教材の開発も進んでいますので、個に応じた支援を充実させるため、引き続き、実践を重ね、教員の活用能力の向上を図ります。</p> <p>タブレット端末PCを利用することで、通常学級での学習に加わることができるようになったという事例も報告されております。今後も、タブレット端末PCを使用する児童・生徒も学級の仲間として安心して学習できるよう環境を整備していきます。</p> <p>特別支援学級での実践を学校全体に広め、多くの教員がタブレット端末PCでの指導について理解を深めるよう校内研修などを行います。</p> <p>各家庭でタブレット端末PC等を利用して学習をする場合には、家庭学習用の教材も配信されておりますので、そういった情報を家庭へお知らせするようにします。</p>	
今後の方針等	<p>有効なアプリの情報については、学校教育課で集約し、学校に情報提供をしていきます。また、タブレット端末PCを用いた効果的な指導の在り方について職員研修を行います。</p> <p>学校での活用やトラブルへの対応のため、ICT支援員を派遣し、支援を行います。また、管理システムの改善をメーカーに依頼していきます。</p> <p>今後購入するタブレット型パソコンには保護用カバー等を装着します。</p>		

平成27年度 事業評価シート

1 -

事業名	地域に信頼され、地域に開かれた学校づくり	担当課	学校教育課 生涯学習課
-----	----------------------	-----	----------------

当初目標	<p>「学校だより」を地域で回覧したり、学校ホームページで学校の情報を積極的に地域にお知らせします。(36校)</p> <p>学校と地域の体制が整ったところからコミュニティ・スクールや信州型コミュニティスクールの導入を進めます。</p> <p>読み聞かせやドリル学習など定期的に学校を支援してくれるボランティアの受入れを進めます。(36校)</p> <p>信州型コミュニティスクールを推進するうえで重要な役割となる、コーディネーターやボランティアを養成する講座を、5回以上開催します。</p>		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	学校教育課		
	「学校だより」を地域で回覧したり、学校ホームページで学校の情報を積極的に周知		0
	学校を支援するボランティアを小学校へ派遣		5
	生涯学習課		
	地域による学校支援の実施(しおだっ子応援団ほか)		159
	学校職員や公民館職員等が学社連携意見交換会に参加し懇談		0
	学社連携事業の先進地を視察(地域住民・公民館職員等)		0
コーディネーター養成講座の開催		30	
目標の達成状況	<p>地域への情報発信を全校において学校ホームページ等で積極的にお知らせしました。(36校)</p> <p>信州型コミュニティスクールなどの要件を満たす学校数は18校となりました。</p> <p>(小学校 H26:9校 H27:12校、中学校H26:3校 H27:6校)</p> <p>また、従来から公民館等を核として行われていた学校支援が、信州型コミュニティスクールの推進もあって、以下のとおり新たな学校支援が始まりました。</p> <p>(小学校)</p> <p>神川小学校では、地域の青少年育成関係者による環境整備支援や学習支援が始まった。南小学校では、PTAに地元住民も加わった、読み聞かせ支援が始まった。</p> <p>(中学校)</p> <p>第一中学校では、特別支援学級への学習支援が、また第六中学校では、一学年の数学の授業での学習支援が始まった。</p> <p>学習支援や、環境整備等の学校支援ボランティアを受け入れました。(36校)</p> <p>各校のボランティアやコーディネーターを育成するために、長野県生涯学習推進センターの養成講座の受講や、地域のコーディネーターの実践状況などを視察するなど、研修機会を設けた。</p>		

総合評価		B
今後の課題等	<p>上田市の現状としましては、国のコミュニティ・スクールの小学校2校と、公民館と連携して地域ぐるみで学校を支援する「学校支援地域本部事業」を行っている塩田中学校のほか、信州型コミュニティスクールの要件を満たしている小中学校が15校あることから、約半数の小中学校で導入が見込まれています。</p> <p>信州型コミュニティスクールの要件を満たしていない学校の多くは、コーディネーター役がないという課題があり、コーディネーターの発掘と育成に取り組む必要があります。</p> <p>コーディネーターを育成するための研修機会を充実するとともに、支援する体制を構築していく必要があります。</p> <p>地域が学校を支援する取組をさらに拡大していくことが必要ですが、学校の実情や地域の特徴を生かしながら、進めていく必要があります。</p>	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>ボランティア同士が意見交換や反省ができる場を設けることで、より充実した取組ができると考えます。</p> <p>学校では、地域とともにある学校づくりを目指し、コミュニティ・スクールなどの取組を進めるためにボランティアを必要としています。このような学校の実情を地域が知らないことがあります。地域の一部の人ではなく、地域全体で学校を支えるという趣旨を踏まえ、ボランティアの確保に向けた地域へのPR活動を充実させる必要があると考えます。</p> <p>学校と地域の双方にメリットがある事業ですが、学校がボランティアに望む支援と、地域ができる支援の調整が難しいという課題があります。引き続き、コーディネーターの発掘・養成に努める必要があると考えます。</p> <p>この事業を推進するために学校や公民館をはじめとする関係機関がより連携を深める必要があると考えます。</p>
	意見に対する考え方	<p>ボランティアの方々が集えるスペースについては、学校要望や活用の状況を踏まえ、既存の建物の中でのセキュリティや設備面での工夫等が出来ないかなど、研究してまいります。</p> <p>信州型コミュニティスクールの導入を進めていくために、公民館等の協力を得て、地域に周知するとともに、学校教育課、生涯学習課、公民館が連携して、今年度中にマニュアルを作成いたします。</p> <p>県の生涯学習推進センターのボランティア養成講座や、コーディネータースキルアップ講座への参加を学校運営委員や学校評議員、公民館職員などに呼びかけ、引き続きボランティア、コーディネーターの発掘・養成に努めてまいります。</p> <p>学校の要望を地域が支援できるよう、地域の人材を熟知している公民館をはじめ教育委員会内部で十分に連携を図り、この事業を進めてまいります。</p>
今後の方針等	<p>今後、信州型コミュニティスクールの導入にあたりましては、実効性のある事業とすることが大切であることから、学校、保護者、地域の皆様の意向を踏まえ、早期導入に向けて取り組んでまいります。</p> <p>地域による学校支援がさらに拡大し、充実した活動となるために、今後も、コーディネーターやボランティアが、他の学校や地域の皆様とも情報交換を行い、自らの活動に反映できるよう、努めてまいりたいと考えております。</p> <p>信州型コミュニティスクールの導入にあたり重要な役割となるコーディネーターは、地域の方に担っていただくことが重要であるため、今後も、生涯学習推進センターの養成講座を紹介するなど、人材の育成・発掘に努めます。</p> <p>また、学校がどのような支援を必要としているかを的確に把握し、できる支援をできることから進めていくために、学校と公民館の情報交換の機会を増やすなど、学校と公民館等との信頼関係の構築に努めます。</p>	

平成27年度 事業評価シート

1 -

事業名	放課後児童対策の充実	担当課	学校教育課
-----	------------	-----	-------

当初目標	<p>全ての放課後児童クラブにおいて、児童の利用がある時間帯に放課後児童支援員を複数配置します。</p> <p>学童保育所トットの家（南小学校区）の平成28年度の建て替えに向け、年度内に施設建設実施設計を完了します。</p>		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	放課後児童支援員を複数配置するための人件費の増額		48,211
	トットの家改築事業 実施設計委託		2,808
目標の達成状況	<p>全ての放課後児童クラブで、児童の利用がある時間帯に放課後児童支援員（補助員を含みます。）を複数配置しました。</p> <p>実施設計事業者及び学童保育所トットの家関係者と話し合いを進め、平成28年3月に設計が完了しました。</p>		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	<p>放課後児童支援員の複数配置のため、予算対応はしましたが、勤務時間が変則的なことから支援員が離職したり、新規採用が難しい現状があります。</p> <p>1施設となることによる事業の効率化を図り、職員配置等を見直し、運営費（指定管理料）の減額を検討する必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>施設を利用する児童が少ない時間帯でも、児童がケガをした場合などは、放課後児童支援員1人では十分な対応ができない事態が想定されます。</p> <p>平成27年度から放課後児童支援員を複数配置しており、安全体制の充実という観点から評価します。</p> <p>施設整備については、必要に応じて順次進めていることを評価します。加えて、施設における指導などの運営面の充実に向けてさらに取組が進められることを望みます。</p>	
	意見に対する考え方	<p>平成27年度から、利用児童がいる時間帯は放課後児童支援員が複数体制となり、児童のケガ等のトラブルが発生した場合でも支援員が役割を分担して対応することが可能になりました。</p> <p>支援員の量的な充実が実現したため、今後は研修等を通して質的な充実を図り、よりきめ細やかな児童に対する対応に努めます。</p>	
今後の方針等	<p>国県の補助金（放課後児童支援員等処遇改善等事業）を活用し、支援員の処遇改善（賃金改善）を実施します。</p> <p>指定管理者と協議を進めます。</p>		

平成27年度 事業評価シート

2 -

事業名	小中学校施設の耐震化事業の計画的な推進		担当課	教育総務課
当初目標	<p>早急に建物の耐震化を図るとともに、屋内運動場の天井材、照明器具、窓ガラスなどの非構造部材の耐震化も推進し、児童生徒の「学びの場」と、災害時には避難所にもなる小中学校施設の安全確保を図ります。</p> <p>耐震化率 校舎・屋体 99.5% 非構造部材 97.1%</p>			
具体的な取組	実施状況			事業費 (千円)
	東塩田小学校屋内運動場改築事業（旧屋内運動場解体工事、外構工事）			60,398
	川西小学校屋内運動場改築事業（本体工事）			154,760
	川西小学校管理棟改築事業（本体工事）			625,982
	本原小学校管理教室棟改築事業（管理・普通教室棟建設第1期工事、アスベスト除去・校舎解体工事）			379,610
	第二中学校改築事業（旧校舎・旧屋内運動場解体工事、外構第1期工事）			202,786
	第三中学校北校舎・昇降口棟改築事業（北校舎棟・昇降口棟建設第1期工事、旧校舎解体工事、仮設校舎建設第2期工事）			556,394
	第三中学校屋内運動場改築事業（屋内運動場建設第1期工事）			
	第三中学校南校舎耐震補強・大規模改造事業（仮設校舎建設第2期工事、南校舎耐震補強・大規模改造工事）			736,941
	第四中学校屋内運動場改築事業（本体工事）			537,774
小学校屋内運動場中学校武道場非構造部材耐震化工事（小学校8校、中学校3校）			126,438	
目標の達成状況	<p>東塩田小学校旧屋内運動場解体工事は、27年11月に竣工し、外構工事は、28年2月に竣工しました。</p> <p>川西小学校屋内運動場改築工事は、27年6月に竣工しました。</p> <p>川西小学校管理棟改築工事は、28年3月に竣工しました。</p> <p>本原小学校管理教室棟改築第1期工事は、校舎建設現場から巨石が多数出てその処理に不測の時間を要し、一部事業費を28年度に繰り越しました。アスベスト除去・校舎解体工事は、27年10月に竣工しました。</p>			

目標の達成状況 (つづき)	<p>第二中学校旧校舎・旧屋内運動場解体工事は、27年8月に竣工しました。外構第1期工事は、同敷地内で施工中の塀・門設置工事との施工場所・時期の調整により不測の時間を要し、一部事業費を28年度に繰り越しました。</p> <p>第三中学校北校舎棟・昇降口棟改築第1期工事は、本工事に先立って実施した旧校舎解体工事が、アスベスト処理等の影響で不測の時間を要したため、一部事業費を28年度に繰り越しました。旧校舎解体工事は、27年10月に竣工しました。仮設校舎建設第2期工事は、27年6月に竣工しました。</p> <p>第三中学校屋内運動場改築第1期工事は、本工事に先立って実施した旧校舎解体工事が、アスベスト処理等の影響で不測の時間を要したため、一部事業費を28年度に繰り越しました。</p> <p>第三中学校南校舎耐震補強・大規模改造工事は、28年3月に竣工しました。仮設校舎建設第2期工事は、27年6月に竣工しました。</p> <p>第四中学校屋内運動場改築工事は、建設に伴う工事車両進入に伴う生徒の仮設通路の検討に不測の時間を要したため、一部事業費を28年度に繰り越しました。</p> <p>小学校屋内運動場非構造部材耐震化工事は8校のうち2校が、工法の変更による調整のため、一部事業費を28年度に繰り越しました。中学校武道場非構造部材耐震化工事(3校)は、28年3月に竣工しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校舎屋体等の耐震化率は、第四中学校屋体・技術科棟改築事業が繰越となり完成に至らず、98.6%となったため数値目標は達成できませんでしたが、該当する工事が全て着工でき平成28年度には100%となる見込みです。 ・非構造部材の耐震化率は、東小学校、城下小学校の非構造部材耐震化工事と第四中学校の屋体改築工事が繰越となり完成に至らず、88.6%となったため数値目標は達成できませんでしたが、こちらも平成28年度に100%となる見込みです。
------------------	--

総合評価		B
今後の課題等	早期に学校施設の耐震化を完了するよう求められていることから、耐震化の必要な校舎等については改築・改修を早急に進めていく必要があります。	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	児童の安全はもちろん、地域の広域避難場所となる施設もあることから、今後も計画に沿って進めることが必要であると考えます。
	意見に対する考え方	小中学校施設改築事業及び耐震化事業等については、計画的に整備を進めていきます。今後、老朽校舎等が増えてくることから、改築だけでなく、大規模改修や長寿命化も視野に入れながら、効果的に実施していくことが必要と考えています。
今後の方針等	学校施設の建物耐震化と屋内運動場の非構造部材耐震化は、平成28年度の完了を目指して進めていきます。	

平成27年度 事業評価シート

2 -

事業名	小中学校施設・設備の計画的な改修と日常的な営繕の充実	担当課	教育総務課
-----	----------------------------	-----	-------

当初目標	学校との連絡を密にし、緊急性や安全性を考慮しながら、営繕工事等を計画的に実施し、安全で快適な教育環境の整備を図ります。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	小学校シャワー施設設置工事（4校：川辺小、神川小、北小、豊殿小）		3,674
	小中学校施設営繕事業		80,327
目標の達成状況	<p>小学校シャワー施設設置工事（4校）は28年3月に竣工しました。</p> <p>学校施設の老朽箇所・故障箇所等の日常的な営繕工事を行い、教育環境の充実に努めました。</p>		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	<p>校舎の耐震化後の施設整備については、昭和30年代の建築校舎7棟、同じく40年代が27棟など、築40年・50年以上経過している建物が増えていることから計画的かつ早急に施設整備を行う必要があります。また、大規模な営繕工事は夏休みに集中するため、計画的に実施する必要があります。さらに、日常的な営繕、維持補修、改修も充実させていく必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>可能な限り予算を確保したうえで、予算が有効に使われることを期待します。</p> <p>校地内に危険と思われる樹木があっても、なかなか対応できない現状があります。予算の制約はありますが、児童生徒の安全確保に向け、学校営繕が進められることが必要であると考えます。</p> <p>また、学校の改築においては、児童生徒の安全面に十分配慮されることを望みます。</p>	
	意見に対する考え方	<p>学校施設の営繕においては、学校要望等を踏まえ、優先順位をつけながら、計画的に実施してまいります。</p> <p>危険木の撤去を含めた各種営繕工事、校舎の改修・改築工事等の実施に当たっては、学校施設内での施工となることから、児童・生徒の安全に細心の注意を払いながら進めてまいります。</p>	
今後の方針等	<p>老朽化した校舎等の施設整備については、公共施設マネジメント基本方針との整合を図りつつ、計画的な改築・改造等を切れ目なく進めていきます。また、日常的な営繕工事等についても、学校との連絡を密にし、緊急性や安全性を最優先に考えながら計画的に実施し、安全で快適な教育環境の整備に努めます。</p>		

平成27年度 事業評価シート

3 -

事業名	「上田市文化芸術振興に関する基本構想」の策定と、文化芸術振興条例制定についての検討	担当課	文化振興課
-----	---	-----	-------

当初目標	「上田市文化芸術振興に関する基本構想」の策定と、文化芸術振興条例制定についての検討を行います。 策定委員の選考、公募、委嘱 策定委員会の開催（7回） パブリックコメントを受けて修正 答申・決定		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	策定委員組織の発足	282	
	文化芸術振興の現状と課題の洗い出し	0	
	文化芸術振興の基本施策の検討	0	
	パブリックコメントによる検討	0	
目標の達成状況	文化芸術の様々な関係者や子供教育、社会教育の関係者、地域での実証、公募の委員により策定委員会（15名）を設置し、第一次基本構想（H20～H27）の進捗状況を踏まえ、現状と課題を十分に協議し、第二次総合計画と整合しながら施策の策定を行った。 文化芸術振興条例化について、策定委員にヒアリングを実施した。 ・ 諮問（9月1日） ・ 第1回 基本構想の構成及び骨子、今後のスケジュール ・ 第2・3回 現状と課題について ・ 第4・5回 基本構想の素案について ・ 中間答申、パブリックコメント ・ 第6回 基本構想（答申案）について、条例について ・ 答申（3月11日）		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	「第二次上田市文化芸術振興に関する基本構想」に基づき、総合的な施策を展開していく必要があります。 市として、文化芸術振興条例制定の是非についての検討が必要です。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	基本構想に基づき、第二次上田市総合計画と整合を図りながら事業が進められることを期待します。 基本構想に基づき、事業を進めることができれば、文化芸術の振興を図るための基礎ができると考えます。基本構想の内容は多岐にわたり、長い年月がかかりますが、基本構想に沿った事業展開に向けて努力されることを望みます。	
	意見に対する考え方	文化芸術振興を図るため、基本構想に基づき、また第二次上田市総合計画との整合性も図りながら総合的に施策を展開し、事業推進に努めてまいります。	
今後の方針等	冊子の配布やホームページ等により市民に周知し、市民協働により施策の展開を図るとともに、定期的に進捗状況をチェックしながら、施策の推進を図ります。 庁内で文化芸術振興条例の検討を進め、28年度中に結論を出します。		

平成27年度 事業評価シート

3 -

事業名	市民や文化団体との連携・協働による文化事業の推進と人材育成の充実		担当課	文化振興課
当初目標	市民協働による文化事業の開催 ・上田城跡能（11月）、うえだ城下町映画祭（11月） ・シリーズ文化講演会を上田、丸子、真田の3地域で開催（3回） 芸術家学校派遣事業（4校）を実施 文化講座（1回）、子ども文化祭（1回）の開催			
具体的な取組	実施状況			事業費 (千円)
	上田城跡能の開催（9月）、うえだ城下町映画祭の開催（11月）			4,000
	シリーズ文化講演会の開催（丸子(1月)・上田(1月)・真田(3月)）			1,200
	芸術家学校派遣事業の実施（7月～11月に4校）			498
	子ども文化講座の開催（11月）、子ども文化祭の開催（2月）			340
	放課後テラス支援事業（5月から11月）			0
目標の達成状況	<p>上田城跡能はサントミュージーゼで開催し、合計703人の入場者が能・狂言を鑑賞しました。うえだ城下町映画祭は、上田文化会館で開催し、延べ1,100人の入場者が地元ロケ作品や秀作日本映画を鑑賞しました。</p> <p>「シリーズ文化講演会」は、上田・丸子・真田各地区の文化団体の連携と協力により開催し、合計約890人が参加しました。</p> <p>【 ・ 】市民団体が主体となり、市民協働により事業が開催され、多くの市民の方の参加をいただき文化芸術の振興が図られた。</p> <p>芸術家学校派遣事業を市内小学校4校で開催し、約500人の児童がタンバリン・落語・オペラ・鍵盤ハーモニカを鑑賞しました。各事業公演後の子どもたちの感想文からは、大変感動した様子が伝わってきます。</p> <p>「詩吟ってな～に？」をテーマに、子ども文化講座を中央公民館で開催し、小中学生等約56人が上田岳風会の子どもたちの詩吟を聴いたり、自ら詩吟を吟じて学びました。また、子ども文化祭をサントミュージーゼで開催し、舞台発表・展示発表を行い、小中学生等約570人が舞台経験、相互交流、運営参加を通して自己表現力を高める機会となりました。</p> <p>今年度から実施した放課後テラス支援事業は、上田高校他2校による合同合唱などが行われました。（H27 2団体、出演者42人、観覧者計約140人）</p> <p>【 ～ 】子どもたちが文化芸術活動に取り組むための支援や文化芸術に触れる機会の創出が図られ、子どもたちからも事業への高い評価を得られた。</p>			

総合評価		B
今後の課題等	<p>市民が主体的に広く文化芸術活動に関わり、継続的に発展していくような環境・仕組づくりをする必要があります。</p> <p>また、青少年が一流の芸術にふれ、豊かな情操を育むためには、長期的な展望のもと継続した取組が必要です。</p>	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>芸術家派遣事業については、少人数で間近でプロの演奏を聴くことができるため、子どもたちにとって非常に良い経験になると同時にキャリア教育にもつながると考えます。</p> <p>インターネットやテレビで手軽に画像を見たり聴いたりできる環境にあるため、芸術家派遣事業は生の芸術に触れることができる素晴らしい取組であると評価します。子どもたちの豊かな感性を育てるためにも、引き続き実施されることを期待します。</p> <p>子どもたちが音楽や芸術に触れるという機会を提供すると同時に、興味を持った子どもたちが、実際に自分で体験できるような場を用意することも芸術振興という点では大切であると考えます。</p> <p>上田市の芸術振興においては、サントミュージゼにおける施策展開などで、教育委員会と市長部局の連携がますます重要であると考えます。</p>
	意見に対する考え方	<p>芸術家派遣事業については、子どもたちが文化芸術に触れ、豊かな情操を育むための機会として、今後も積極的に取り組んでまいります。</p> <p>芸術家派遣事業とあわせ、興味を持った子どもたちが実際に体験できる場の提供や、文化芸術活動に対する支援事業を推進してまいります。</p> <p>サントミュージゼと連携・調整して事業を推進し、上田市の芸術振興に向けて取り組んでまいります。</p>
今後の方針等	<p>市民協働による文化創造事業の推進をするとともに、市内文化施設の利用促進が図られる環境づくりに努めます。</p> <p>サントミュージゼが実施している芸術家による学校へのアウトリーチ活動（出前授業）と連携を図り、子どもたちが小学校、中学校在籍時に、それぞれ1回以上は学校において芸術鑑賞・体験ができるように努めます。</p>	

平成27年度 事業評価シート

3 -

事業名	史跡等整備推進と文化財の保護と活用	担当課	文化振興課
当初目標	<p>説明板設置等・AR映像作成・資料収集 史跡上田城跡整備実施計画検討委員会(1回以上)開催、調査随時 史跡信濃国分寺跡僧寺北辺及び西辺築地塀推定地調査 開発事業に伴う事前調査随時 上田城跡(北駐車場等)発掘調査 市内文化財の保護・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修繕等補助 ・無形文化財継承団体補助(16団体) ・文化財de文化祭事業(文化財学習と文化財を活用した文化事業)の実施 ・文化財のデジタル保存と活用 ・文化財データの民間利用による活用の拡大 		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	説明板新設21基、修繕14基、アプリ「VR上田城」作成	27,016	
	史跡上田城跡整備実施計画検討委員会(6月5日開催)	584	
	史跡信濃国分寺跡僧寺北辺及び西辺築地塀推定地調査(9月～11月)	9,000	
	開発事業に伴う立会調査(107件)、試掘調査(11件)	2,000	
	上田城跡(北駐車場・トイレ設置予定地ほか)発掘調査(7月～11月)	9,500	
	お舟の天王山車、科野大宮社社叢、常田獅子保存修理事業補助	1,618	
	無形民俗文化財後継者事業補助(16団体)	480	
	「文化財de文化祭」の開催(2回)	500	
埋蔵文化財分布図のデジタル化と市HPでの公開			
目標の達成状況	<p>史跡上田城跡については、整備事業を計画どおり実施しました。「VR上田城」は6,826件(1/4～3/31)のダウンロードがあり好評を得ております。</p> <p>史跡上田城跡整備実施計画検討委員会では、大河ドラマへ対応する整備事業検討及び櫓の建築年代の検討を行いました。</p> <p>史跡信濃国分寺跡については、計画どおり発掘調査を実施しました。</p> <p>史跡上田城跡の発掘調査では、仙石氏以前の堀の痕跡や、二の丸堀の鬼門除けの正確な位置を確認する成果がありました。</p> <p>市内の開発事業に伴う立会調査(107件)と、試掘調査(11件)を実施しました。件数は増加傾向にあります。</p> <p>市指定文化財の保存修理事業への補助により、文化財の保全に寄与できました。また、文化財の活用に向けた新しい取り組みとして、「文化財de文化祭」を2回開催し合計約450人の参加があり、コンサートを楽しみながら文化財の学習ができました。さらに、新たに埋蔵文化財分布図のデジタル化と、市HPでの公開を行い、事業者にとって利便性が向上しました。</p>		

総合評価		A
今後の課題等	<p>国の史跡上田城跡と信濃国分寺跡の整備事業については、「史跡上田城跡保存管理計画」、「史跡上田城跡整備基本計画」及び「史跡信濃国分寺跡保存整備基本計画」に基づいて着実に推進していく必要があります。</p> <p>大河ドラマ放送をきっかけに、真田氏関連の歴史に関心が高まりましたが、これを機会に多くの文化財を有する上田市として、その歴史と文化遺産を広く伝えるとともに、その価値を共有化し、活用し続けるための施策が必要です。</p>	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>「文化財de文化祭」など素晴らしい事業を実施しているので、十分な周知・啓発を図り、関係者をはじめとする市民の誇りとなるような事業が展開されることを期待します。</p> <p>発掘調査については、小人数の職員体制のなかでも現場見学会を開催するなど、精力的に取り組まれたことを評価します。</p> <p>発掘調査においては、想定する成果がすぐに現れない場合もありますが、地道な調査を重ね、正確な調査結果を市民に知ってもらうことが大切であると考えます。</p>
	意見に対する考え方	<p>「文化財de文化祭」などの事業については、十分な周知を図り、多くの市民の認知と理解を得られるよう努めてまいります。</p> <p>今後も発掘調査の結果については、広く周知し埋蔵文化財の理解を得られるよう積極的に公開してまいります。</p> <p>同上</p>
今後の方針等	<p>史跡上田城跡二の丸南東部（旧市民会館南東側）の発掘調査を来訪者が見学できるように公開で実施します。また、史跡信濃国分寺跡では、僧寺南大門東域の発掘調査を実施します。</p> <p>「文化財de文化祭」などの事業を展開し、文化財への理解と活用を促進します。</p> <p>将来的に「日本遺産」の認定を目指し、「上田市歴史文化基本構想」を平成28～30年度で策定します。同時に、文化財を活用した事業を積極的に実施し、PRすることにより、市民の文化財への理解と活用を促します。</p>	

平成27年度 事業評価シート

3 -

事業名	郷土の文化・歴史、偉人の業績等を知る機会の創出	担当課	文化振興課、博物館
-----	-------------------------	-----	-----------

当初目標	<p>各施設での特別展や講座（市立博物館3、信濃国分寺資料館8）の開催 平成28年NHK大河ドラマ関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館における企画展示の実施 ・真田氏や上田城の歴史に関する講座を博物館、公民館、図書館が連携し、各館1回以上開催します。 ・真田氏の演劇鑑賞事業の開催(5校) ・仮称「真田氏歴史読本」作成と頒布 <p>博物館展示施設の更新 ジオラマ製作、上田城関係の映像制作、レプリカ製作</p>		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	真田氏関連特別企画展ほか企画展や講座の開催	1,278	
	真田氏の演劇鑑賞事業（6校）	1,200	
	冊子『史料に見る真田氏の歴史』作成と頒布（9千部）	962	
	ジオラマ、シアター映像、レプリカ製作事業・博物館施設改修事業	45,480	
目標の達成状況	<p>博物館、信濃国分寺資料館、丸子郷土博物館、武石ともしび博物館で、郷土の文化、歴史、偉人の業績をテーマにした企画展を計画どおり開催しました。</p> <p>大河ドラマ関連事業としては、博物館別館において「真田氏関連特別企画展」を開催しました。また、全ての公民館及び図書館で真田氏関連の講座を開催しました。また、真田氏の演劇鑑賞事業は、市内小学校において7月～11月の間に6回（6校）開催しました（参加児童1,890人）。さらに、真田氏と上田城の歴史をまとめた冊子『史料に見る真田氏の歴史・上田城歴史年表』を12月に9千部作成し、市内全中学校の生徒及び教員、観光ボランティアガイド等に配布しました。</p> <p>旧山本県記念館を博物館別館として改修し、博物館本館とともに全面的にリニューアルしました。別館にはシアターコーナーを設置し、新たに真田氏と上田城を紹介する映像を制作しました。また、上田城を紹介するジオラマや資料のレプリカを製作し、展示に活用しました。</p> <p>博物館および上田城櫓の入館者数が87%（対前年度）増加しました。</p>		

総合評価		A
今後の課題等	<p>大河ドラマ「真田丸」の放送により、真田氏や上田城に対する関心が高まっているため、市民や観光客のニーズに対応して、今後も展覧会や講座等を積極的に開催する必要があります。</p> <p>真田氏以外の郷土の文化・歴史・偉人の業績をテーマにした展覧会や講座を博物館・公民館・図書館等の社会教育施設で開催し、郷土の文化や歴史について学習し、理解と愛着を深める機会を創出する必要があります。</p>	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>真田氏に関する冊子の小中学生等への配布に加えて、『ふるさと上田人物伝』（仮称）の作成・頒布が予定されているようですが、これらが学校において有効に活用され、この事業の効果が高まることを期待しています。</p> <p>上田市の自然環境について、身近に触れることができる施設があると良いと考えますが、これについては、博物館と上田創造館の共同事業としてフィールドワークなどを実施することも1つの方法であると考えます。</p> <p>関連機関との連携を図りながら、郷土の文化・歴史等の学習機会が創出されることを期待します。</p>
	意見に対する考え方	<p>『ふるさと上田人物伝』（仮称）につきましては、作成後に学校等で有効に活用されるよう努めてまいります。</p> <p>上田市の自然環境について、フィールドワーク等市民の学習活動が展開できるよう努めてまいります。</p> <p>今後も、他の社会教育機関や学校等との連携を図りながら、郷土の文化・歴史等の学習機会の創出に努めてまいります。</p>
今後の方針等	<p>博物館においては、魅力ある企画展の開催や定期的に常設展示の展示替えを行うとともに、市民や観光客のニーズに対応した公開講座を含めた講座等を開催します。</p> <p>市内の小学校を対象とした真田氏の演劇鑑賞事業を引き続き実施します。また、郷土の先人・偉人の業績を紹介する冊子『ふるさと上田人物伝』（仮称）を作成し、中学校等における学習利用に努めてまいります。</p> <p>社会教育機関においては、連携を図りながら各種展覧会や講座（自然環境分野含む）を開催してまいります。</p>	

平成27年度 事業評価シート

4 -

事業名	「上田市生涯学習基本構想」の策定	担当課	生涯学習課
-----	------------------	-----	-------

当初目標	社会教育関係者等による基本構想策定委員会を設置し、第二次上田市総合計画との整合性を図りながら、基本構想を策定します。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	生涯学習基本構想策定委員の選出		0
	策定委員会の開催（委員報酬）		346
	生涯学習基本構想中間答申		0
	生涯学習基本構想答申		0
目標の達成状況	<p>8月19日の審議会等附属機関委員選考委員会により、16名の策定委員を選出した。（会長：安井啓子氏、副会長：早坂淳氏）</p> <p>9月29日に委嘱状の交付、第1回策定委員会。</p> <p>3月14日まで、6回の策定委員会と5回の正副会長会を行う。</p> <p>2月12日に、教育長に対し中間答申を行う。</p> <p>3月18日に、教育長に対し生涯学習基本構想の答申を行う。</p>		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	<p>第二次上田市総合計画の個別計画であり、期間が10年間であるため、社会情勢の変化に対応できているかなど、計画期間中でも見直しを図る必要があります。</p> <p>「上田市文化芸術振興に関する基本構想」や、「上田市スポーツ振興計画」等との整合を図る必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>第二次上田市総合計画の個別計画として、議論を重ねて策定された構想であり、これに基づき、関係課や地域と連携を図り、具体的な施策が進められることを期待します。</p> <p>基本構想は、第二次上田市総合計画と整合がとれた内容ではありますが、期間が10年間と長いこと、上田市の変化に目を向け、期間中でも見直しを図ることで市民を主体とした生涯学習が開かれることを期待します。</p>	
上田市教育行政評価懇話会	意見に対する考え方	<p>関係課や地域と連携を図り、市民が主役となった生涯学習となるよう、第二次生涯学習基本構想に基づき施策を進めてまいります。</p> <p>また、随時、現状の把握と課題の検証を行い、上田市の変化に応じた修正や見直しを行います。</p>	
今後の方針等	<p>基本構想の計画に基づき、各課等における「現状」と「課題」の検証を行い、必要に応じて基本計画の見直しを行います。</p> <p>関連課と連携を図り、互いの計画に大きな相違などが生じないように、調整していきます。</p>		

平成27年度 事業評価シート

4 -

事業名	社会教育施設の計画的な整備	担当課	生涯学習課
-----	---------------	-----	-------

当初目標	建替用地を取得するとともに、地域住民などと整備計画について協議を進め、基本・実施設計を作成します。 神川地区公民館の建替については、神川統合保育園など関係部局との調整・検討を進めます。 建設地や規模等について検討します。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	西部公民館建替え用地の取得、公民館施設実施設計等		145,291
	神川地区公民館の整備に向けた検討		0
	上田図書館の整備に向けた検討		0
目標の達成状況	西部公民館については、建設用地を取得し、建物の実施設計及び用地の透水試験等を行いました。 神川地区公民館については、関係部局との調整・検討を進めた結果、神川地区拠点施設整備事業として、蒼久保地籍にある城南製作所工場跡地を取得・利用し、保育園及び公民館を合築した施設を、平成30年度の供用開始を目途に建設することとなりました。そのための経費等を平成28年度予算に計上しました。 上田図書館については、他の公共施設整備との調整が必要であることから、関係部局と個別の調整・検討を進めました。		

総合評価	A
------	---

今後の課題等	豊かな生涯学習社会の実現に向け、老朽化等が進む社会教育施設について、引き続き計画的な整備を行い、生涯学習環境の充実を図っていくことが必要です。 西部公民館の整備 神川地区公民館の整備 上田図書館の整備		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	(図書館整備について) インターネットの普及が進み情報収集の利便性が向上した面もありますが、図書館を利用して調べるという過程は大変重要であり、市民のためにどのような図書館を整備するべきか十分検討されることを望みます。 図書館には、本の貸し出しだけでなく、「調べもののお手伝い」であるレファレンスなどの重要な役割があります。利用率だけで必要性や規模を判断するのではなく、市民が本を通して学ぶ喜びを味わえるように十分に議論を重ね、整備計画が進むことを期待します。	
	意見に対する考え方	図書館には、本の貸し出しのほかに、資料の収集、整理、保存、提供などの重要な役割があります。地域の身近な情報拠点として、暮らしと学びに役立つ図書館となるよう、今後策定する第二次上田市図書館基本構想の中で、上田市全体の図書館のあり方や運営方法も含めた方向性や、施設整備について検討してまいります。	
今後の方針等	西部公民館については、実施設計に基づき建設を行い、外構整備の実施設計を行います。 神川地区公民館については、用地を取得するとともに、地域住民などと整備計画について協議を進め、建物及び外構の設計を行います。 上田図書館については、上田市の図書館のあり方や役割分担、施設の配置も含めた基本構想を策定し、その中で施設の整備についても検討を進めます。		

平成27年度 事業評価シート

4 -

事業名	人権同和教育推進事業	担当課	生涯学習課
-----	------------	-----	-------

当初目標	<p>人権施策基本方針に基づいて、学校、家庭、地域、企業、職員に対する人権同和教育・啓発を推進します。</p> <p>また、市民一人ひとりの人権が尊重され、日常生活の中で人権に配慮した具体的な態度や行動に現れるよう研修会等(数値目標 参加者36,000人)を開催し、市民の人権意識の更なる向上を図ります。</p>		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	学校人権同和教育	4,538	
	地域人権同和教育	4,476	
	社会教育団体等人権同和教育の推進	295	
	企業人権教育の推進	200	
	解放子ども会事業	750	
目標の達成状況	<p>学校、地域、団体、企業等全体で、講演会と研修会を開催した結果、延べ38,200人が参加し、市民の人権意識の更なる向上が図られました。</p> <p>人権啓発担当者研修会では、市内の各種団体や各学校のPTA、保育園・幼稚園の保護者が参加し、地域のリーダーとなるべく人材の育成を目的とした学習会を実施しました。参加した多くの方から、「日常生活の様々な場面で常に相手の気持ちになって考えられるような自分でありたい」「大変参考になり非常に有意義な会だった」などご意見をいただきました。</p>		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	<p>担当者研修会などの場に、一人でも多く参加をいただき、市民一人ひとりの人権が尊重され、日常生活の中で人権に配慮した具体的な態度や行動に現れるような、有意義な研修会等を企画・実施し、人権同和教育と啓発を継続して推進していく必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>学校や地域などにおける研修会、講演会に多くの市民が参加されており、取組について評価します。</p> <p>時代の変化により新たな人権問題が発生することが考えられますが、人権が尊重される上田市を目指して、より一層取組が進められることを期待します。</p>	
	意見に対する考え方	<p>一人ひとりの人権が尊重される社会の実現は、一朝一夕に成し遂げられるものではないことから、今後も様々な機会を捉え、継続して人権同和教育に取り組んでいきます。その方法として、引き続き、講演会や研修会を実施していきます。</p> <p>また、新たな人権課題についても積極的に取り組み、人権尊重のまちづくりを目指します。</p>	
今後の方針等	<p>地域、学校、企業等で行う研修会等においては、それぞれの課題に合わせた実効性のある取組となるよう検討していきます。また、公民館等と連携して、大勢の方に参加してもらえよう工夫するとともに、参加した人が日常生活の中で人権に配慮した態度や行動になるよう教育と啓発に努めます。</p>		

平成27年度 事業評価シート

5 -

事業名	スポーツ施設整備の推進	担当課	スポーツ推進課
-----	-------------	-----	---------

当初目標	スポーツ関係団体との協議を重ねるとともに、上田市公共マネジメント基本方針との整合性を図りながら、上田市スポーツ施設整備基本構想を策定します。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	スポーツ施設担当者における基本構想検討資料作成	0	
	スポーツ関係団体等に対し基本構想検討資料を説明	0	
	スポーツ施設整備基本構想（検討案）作成	0	
基本構想とマネジメント基本方針の整合について庁内関係部局と協議	0		
目標の達成状況	担当者会議において、スポーツ施設全体の現状と課題を確認するとともに、各エリア別の課題と今後の方向性も検証しながら、基本構想検討案を作成しました。 スポーツ推進審議会・体育協会・スポーツ推進委員会・市議会スポーツ議員連盟に対し、スポーツ施設整備基本構想検討案の説明をするとともに、内容についての意見をいただきました。 基本構想策定にあたり、上田市公共施設マネジメント基本方針との整合を図る必要性が生じたことから、関係部局との協議を行いました。		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	スポーツ施設整備基本構想（検討案）を作成しましたが、上田市公共施設マネジメント基本方針（平成28年3月策定）との整合性を図る必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	スポーツ施設整備基本構想の策定においては、大会誘致により市民がスポーツに触れる機会を増やすことやスポーツ観戦を通して子どもたちに夢を持ってもらうなど施設に求める役割を十分議論しながら進められることを期待します。 施設整備については、競技スポーツに加え、健康づくりの視点も踏まえ、関係機関と連携を図りながら進められることを望みます。	
	意見に対する考え方	スポーツ施設整備基本構想の策定にあたり、上田市公共施設マネジメント基本方針を基に、スポーツ関係団体等の意見も聞きながら、観るスポーツや生涯スポーツも含めた施設の整備を基本構想に盛り込みたいと考えています。	
今後の方針等	上田市公共施設マネジメント基本方針が策定された後、庁内関係部局と連携を図りながら、基本構想（検討案）を修正し、上田市スポーツ施設整備基本構想を策定します。		

平成27年度 事業評価シート

5 -

事業名	市民のスポーツへの関心や参加意欲の促進及び生涯スポーツ社会実現のための施策	担当課	スポーツ推進課
-----	---------------------------------------	-----	---------

当初目標	広報うえだ等の情報誌により活動内容の周知(30回) 全国大会等の出場者支援(30件) こころのプロジェクト「夢の教室」実施推進 新規に自然環境を活用したスポーツイベント「太郎山登山競争」の開催 スポーツ少年団指導者等に対する研修会の開催		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	「広報うえだ」(94回)、「上田スポーツプレス」(6回)へ情報掲載	300	
	こころのプロジェクト「夢の教室」の開催(6校、11クラス、347人)	1,192	
	スポーツイベントの開催(25事業)	14,711	
	スポーツ教室の開催(63教室)	7,214	
	スポーツ少年団への補助、全国大会出場奨励金(29件)、市長表彰(7件)	13,100	
目標の達成状況	「広報うえだ」や「上田スポーツプレス」等を活用し、スポーツ団体の活動状況やスポーツ関連の情報提供を行いました。 全国大会の出場者に奨励金の交付を行うとともに、市長表敬や成績優秀者に対して市長表彰を行いました。 こころのプロジェクト「夢の教室」(1校増)を行い、子どもたちにトップアスリートから直接、夢を持つことの大切さや諦めない心の大切さを伝えました。 スポーツ団体と協働しながら、新たに自然環境を活用した「太郎山登山競走」(377人)を実施しました。 スポーツ少年団や体育協会の主催によりスポーツ少年団指導者等に対して研修会を開催しました。(6回)		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	「健幸都市うえだ」を目指し、気軽にスポーツに親しみながら健康・体力づくりができるよう、情報提供やスポーツ団体と協働してスポーツイベントを開催する必要があります。		
上田市の教育行政評価懇話会	委員からの意見	スポーツをすることで、勇気や心や他人と協力する心が育てられることから、生涯を通じてスポーツの役割は大きいと考えます。上田市でスポーツに親しむ市民が増えるよう取り組まれることを期待します。 こころのプロジェクト「夢の教室」は、子どもたちがトップアスリートと触れ合い、スポーツの面白さやどのような努力をしたかななどの交流が持てる素晴らしい取組であり、これが継続されることを期待します。 「太郎山登山競走」をはじめとするスポーツイベントについて、上田市民の参加者が増加するよう十分周知が図られることを期待します。 健康チャレンジポイント制度の周知については、関係機関と連携をして、スポーツイベント参加者が増えるように取組が進むことを期待します。	
	意見に対する考え方	上田市スポーツ振興計画に位置づける「生涯スポーツ社会」の実現に向けた事業を引き続き推進します。 次代を担う子どもたちに向けた「こころのプロジェクト」については、より多くの学校での実施を目指します。 市内で開催される民間主体のイベントについても積極的な広報に努めます。 健康チャレンジポイント制度は、あらゆる世代が気軽にスポーツに親しむきっかけづくりとなるため、関係機関と連携しながら引き続き取り組んでまいります。	
今後の方針等	健康づくりチャレンジポイント制度の活用などを踏まえながら、スポーツイベントの参加者拡大に努めます。 また、スポーツ団体と連携しながら、協働で市民の健康づくりを図るイベントの開催を検討します。		

平成27年度 事業評価シート

5 -

事業名	総合型地域スポーツクラブの活動支援	担当課	スポーツ推進課
-----	-------------------	-----	---------

当初目標	広報うえだ等の情報誌により活動内容の周知(30回) 市内総合型地域スポーツクラブと連携した健康づくりイベントの開催検討		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	「広報うえだ」(33回)、「上田スポーツプレス」(6回)へ情報掲載		300
	連携イベントの開催(2回)、連絡会議の開催(3回)		0
目標の達成状況	「広報うえだ」や「上田スポーツプレス」等を活用し、スポーツクラブの活動状況の周知を行いました。 スポーツクラブと協働し、「太郎山登山競走」(377人)や「体力測定会」(80人)を開催しました。また、健康チャレンジポイント制度の拡大やスポーツクラブの活動充実のための連携イベント開催等について会議を開催しました。		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	スポーツクラブの活動が、市民が気軽にスポーツに親しめる場づくりの役割を担っていることを広く周知する必要があります。また、スポーツクラブが個々で活動するだけでなく、連携してスポーツイベント等を開催するなどスポーツクラブの活動の充実を図る必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	総合型地域スポーツクラブは、市民が身近にスポーツに親しめる場であり、この活動が続けられるように上田市からの支援が継続されることを望みます。	
	意見に対する考え方	クラブ間の連携組織の設立を支援するとともに、協働して、子どもから高齢者まで多くの市民が様々なスポーツを身近に継続して親しめるような活動を推進してまいります。	
今後の方針等	行政とスポーツクラブとの連携、協働を一層図り、活動内容の情報発信やスポーツイベントの開催など、スポーツクラブの活動が充実できるよう支援を行います。		